

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会の女性向け事業

女性向け事業とは

日本ブラインドサッカー協会（以下、JBFA）の女性向け事業は、女性の視覚障がい者へのブラインドサッカー普及・発掘・強化を目的とした事業です。2001年にブラインドサッカーが日本に導入されて以来、ブラインドサッカーの女子選手は男子選手に混ざってプレーをしなければならない状況が続いており、身体や運動能力に差異が生じる環境下では、女子選手にとって競技を続けるににくいという社会課題がありました。

日本における、18歳以上の視覚障がい者の男女比は46.5%対52.3%（注1）と女性の割合が多いにも関わらず、2016年7月開催の「第15回 アクサ ブレイブカップブラインドサッカー日本選手権」に出場した視覚障がいのある女性選手は、男女合計した視覚障がいのある選手の14.7%と男性のその割合と比較すると少なく「Minority of Minorities」というのが現状です。

そのため、JBFAは参加選手を女性に限定し所属チームを横断した女子練習会、そのメンバーを中心としたエキシビジョンマッチ、日本代表を目指す選手向けの女子日本代表選手育成合宿と女子選手が段階的に競技力を向上できる場を作り、定期的な練習機会の創出、スポーツを通じた社会スキル向上を促進してきました。

JBFAは、視覚障がい者と健常者が当たり前に混ざり合う社会を実現することを目指しており、女性向け事業を通して、性別に関係なく、ビジョンを達成できるようにさらに邁進します。

（注1）平成25年版障害者白書

女子練習会 定期的な練習機会の提供・女子選手の発掘と育成の場

ブラインドサッカー女子練習会は、2014年1月に初めて開催された女子選手の発掘と育成を目的とした活動です。競技を楽しんでもらいながら交流を深め、2016年7月までに計10回開催。晴眼者の女子選手も含め約142名が参加しました。練習会では、JBFAの認定コーチが、参加者の視力や運動レベルに合わせた指導を行っています。所属するチームでは男子選手と一緒にプレーしている女子選手が、この練習会では体格や体力差を気にせずプレーすることができると好評です。



エキシビジョンマッチ 女子選手だけで結成されたチームで行った初めての有観客試合

2016年7月の「第15回 アクサ ブレイブカップブラインドサッカー日本選手権」(アミノバイタルフィールド) 決勝前イベントとして開催された試合です。女子練習会に参加してきたメンバーと、過去にJBFAが主催する普及育成の事業に参加してきた生徒・児童が対戦しました。結果は、0-0でしたが、女子選手たちにとっては1,000名超の観客が見守る中での、初めての有観客試合となりました。



女子日本代表選手育成合宿 将来的な国際大会を見据えた女性選手選抜合宿

2017年1月から開始した、女子練習会に参加してきた選手のほかに日本代表選手として競技することを志望する選手を集めた、競技力向上を目的とした合宿です。現在、パラリンピックや世界選手権などの公式国際試合では女子選手がプレーするブラインドサッカーの категорияは存在しませんが、近年、欧州・南米を中心に「女性カテゴリー」の活動が活発化しています。視覚障害者スポーツの国際統括組織であるIBSAは、2017年5月にウィーンにて女子選手向け国際大会を開催予定で、その大会への出場を目指して全国各地から選手が集い活動しています。

